



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **46**

2023.2.28

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次:信州ESD/SDGs成果発表&交流会

2月3日&4日 信州ESD/SDGs成果発表&交流会が実施されました

令和4年度の成果発表&交流会が「ユネスコエコパークと共に学ぼう」を副題として開催されました。今回は、参加校も全国からと多く交流を重視したので、3日の午前、午後、4日の午前に各2会場の計6会場を設定し、会場ごとに交流会を設け、両会場の全体共有の時間をもとりました。発表はYouTubeでも配信し、参加児童生徒400名に加えて、総視聴者数は940名となり盛会でした。以下、会場順に概要を報告します。

——3日(金) 9:50~15:30——

9:50 開会 西コンソーシアム運営委員長の司会により、以下の開会挨拶があった。

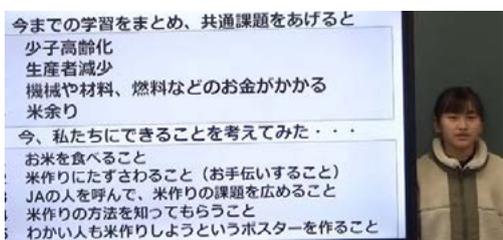
- 中村信州大学長 全国から発表は楽しみ。現在は多様な課題が多い、信大は人と自然の調和をめざして研究教育を行っている、中でもこれからは教育が重要になってきており、これからもESD活動に尽力していきます。
- 村松コンソーシアム会長・信州大学教育学部長 多様な発表ありがとう、学びの観点として1.多様な考え、2.自分で調べる、大事だと思う、指導の教員にも今後事もよろしくお願いします。
- 大津イオン財団マネージャー イオンは平和で地域に貢献を理念とし、1992年に地球環境を守る財団を設立し、持続可能な里山里海づくりを支援し、エコパークと提携した環境教育に取り組み、ESDにも力をいれている。

全体での開会行事の後、会場1と2に分かれて発表と交流が行われた。

会場1

司会と学校紹介者が自己紹介し、画面での全参加者撮影の後、各校の発表が順次行われた。(以下、各会場同様)

- 山ノ内町立南小学校3年生 地域の魅力探してゴミが多いことに気づき、ごみ拾いを始めました。中でもプラごみが気になり、町の人に呼びかけるポスターを作成し張り出しました。校内でも紙のリサイクルを呼びかけ、CO₂の削減量を計算しました。



- 飯田市立和田小学校5年生 「米作り」を、楽しみだな、やり方を覚えるぞと関心を高めていました。社会科の「米作りのさかんな地域」で課題に出会うことで「日本のお米を守ろう」を学習テーマにしました。草取りや稲刈りは大変でしたが米を60Kg、もち米を40Kgも取れ、販売もしました。高齢化や消費減などの課題を学び、お米を食べる、手伝いをする、米粉をひろめるなど自分たちでできることを考え発表しました。

- みなかみ町立新治小学校5年生【群馬県】 日本を代表する豊かな生態系の「赤谷の森」のイヌワシなど自然の素晴らしさを体験し、地形、植物、動物の3班で探求活動しました。また、「ニホンジカの増加」という課題に気づき、専門家へ質問したりして人とシカの関係について考え、駆除の必要性やその活用法などを「たより」を作って町の人にも配布しました。



交流会 グリーンヒルズ小より新治小へ、なぜシカが畑に出るのですかと質問、シカを保護したので増えて山の植物が少なくなって里に出てきましたと回答。新治小から南小へ、ごみはいつが多いですか、ポスターを張り出した効果はありましたかと質問、夏にはプラごみが、秋には紙ごみが多かったです、ポスターでごみが減ったと思いますと回答。和田小から新治小へ、町の人への訴えはどうでしたかと質問、今のところわかりませんと回答。



●**飯田市立遠山中学校生徒会** “遠山郷を守ろうプロジェクト”は「地域のために自分達も何かをしたい」と始まった生徒会主体の活動です。学校周辺のゴミ拾いや花をつくり地元へ送る活動を継続し、現在は小中3校交流プロジェクトや地域フォーラムなど地域の一員として役に立てる事を考えながら活動しています。学有林での林業体験や霜月祭りなどにも取り組んでいます。

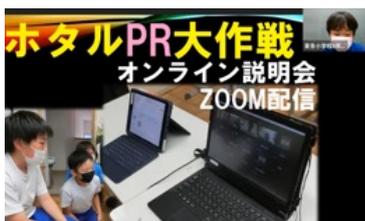
●**根羽村立義務教育学校根羽学園** 1・2年生は季節の生き物、3・4年生は根羽村を知る、5・6年生は池の水抜き、7・8年生は木工、9年生は根羽杉のブランド化など、9年間を通して村の森林資源を題材にESDを行っている。また全校でシイタケ栽培に取り組む、総合的な学習では地域の人やものを活かし村に貢献する協働的で探究的な深い学びを実践し、インスタグラムで発信もしている。



交流会 新治小から遠山中に、花を贈ってどんな反応でしたかと質問、お年寄りなどから感謝され嬉しかったですと回答。和田小から根羽学園に、木工では何を作っていますか、インスタグラムでは何を発信していますかと質問、椅子などを作って提供しています、インスタでは根羽村の季節の景色や行事の様子を発信していますと回答。

講評 **安田先生 (大牟田市前教育長)** 各学校の取り組みを個別に講評いただきました。そして共通していることとして、地域の魅力を調べ、同時に課題も発見することでそれを自分たちでできる解決策まで考え学びを深めています。それを地域へも発信するという行動にまで移しているのが素晴らしい。交流会で活発な質問意見がでていましたが、他校の発表をしっかりと聞いていた証拠です、素晴らしい交流ができました。皆さんは地域の宝です、これからも頑張ってくださいとエールをいただきました。

会場2 ●**飯田市立上村小学校5・6年生** 大好きな上村で上村PR大作戦を展開しています。その中でSDGsの『陸の豊かさを守ろう』に関わり特産品のシイタケやシモグリイモ、ソバの栽培・販売活動、『住み続けられるまちづくりを』に関わり地区に花を植えゴミ拾いをし、東京の母子生活支援施設との交流もおこない、上村の魅力とSDGsを関連付けて幅広く活動をしました。上村地区に愛情をもち、一生懸命魅力を伝えました！



●**長野市立東条小学校6年生** ホタルは昔から村で保全され学校では飼育放流し、水路整備をし、大臣表彰など長い歴史がありますが、近年では少なくなっています。そこで「ホタル復活大作戦」を開始し、幼虫が上陸できるように水路を整備し、ザリガニを駆除して、6年ぶりに大復活し、万歳！ホタル水路を整備している滋野小学校ともオンラインで交流しました。大人になってもっと増えたホタルを見たいと将来の夢を語ってくれました。



●**山ノ内町立南小学校6年生** 学校脇にある佐野遺跡に注目し、そのPR活動に取り組みました。土器創りをし、竪穴住居を作ることにしました。

材料や組み立ては大変でしたがやっと人が入れる小屋が完成しました。町への観光客に佐野遺跡を知ってもらうために小屋の制作過程を動画撮影して、英語も入れて発信しています。

交流会 東条小から南小へ、縄文の小屋作りは大変でしたかと質問、大変だったけど中に入って楽しかったと回答。上村小からも南小の小屋はすごいと感想。南小から東条小のホタル復活すごいと感想。各学校からも、それぞれSDGsに関連して行動しているのがすばらしいと感想。



●**綾町立綾中学校生徒会【宮崎県】** 最初に綾中学校のきれいな木造校舎の紹介があり、後に校舎がうらやましいとの感想がありました。生徒会によるこれまでの①ペットボトルキャップとコンタクトレンズキャップの回収に加えて今年度はゴーヤ栽培によるSDGs活動をおこなった。さらに総合的な学習の時間で制服の改善、エコバッグ作り（500枚）、服のカーププロジェクト、森の健康診断、など地域と関わる活動もいろいろおこなった。

●**高山村立高山中学校** 学校給食の食材をフードマイレージで計算し、箱ひげ図で表して地産地消の良さや課題を分析しました。ジャガイモは地元と長崎産とでは500倍もマイレージが高く驚きました。さらに海外からはより大きな負荷があることがわかりました。これからは地元産の給食を感謝でいただきたいと調査の感想を述べてくれました。

	重さ	距離	輸送料	CO ₂	フードマイレージ
高山村	536kg	2 Km	671円	185g	1.072
長崎県	464kg	200km	26184円 13930円	96326g	556.8

交流会 南小から綾中へ、すごい数のキャップ集めはどうやりましたか、道の駅など地域の方々の協力で年々増えましたと回答。綾中から、高山中の給食は、地域の特産物のフードマイレージまで計算してすごいの感想。南小から綾中に、新聞紙でのバッグ作りはすごい、どのくらい作りましたかと司会から質問、1年生が500枚と回答、すごいと声があがりました。

講評 市瀬先生（宮城教育大学教授） 上村小学校は、歌でPRが良かった、芋も良いですね。東条小学校はホタルが復活して良かった。南小学校に作った土器は使えますかと質問、試していませんと児童から回答。綾中学校はゴーヤの緑のカーテンの効果を実際に検証したのが良かった、植樹をしていますが何を植えていますかに、地元の照葉樹を復活させていますと回答。高山中学校のフードマイレージの計算は数学にもつながりますね、メニューと食品ロスはどうですかに、カレーは皆すきなのでロスが少ないですと回答。それぞれに回答ももらい高い評価をいただきました。

全体共有の時間 会場1に集まり、両会場の報告を指定報告者に発表してもらい全体共有しました。

—— 12:15から13:30まで昼休み ——

会場3

●**山ノ内町立東小学校4年** 志賀高原生まれの楽器「コカリナ」について学習し、工房の人に由来を聞いたり、コカリナの種類や素材を調べたりしました。「たくさんの曲を上手にふけるようになりたい」との願いを持って、おうちの人に聴いてもらう、志賀高原遠足に持っていき山で吹く、コカリナフェスティバルや音楽会で発表するといった活動をしました。最後に、全員でカントリーロードを演奏してくれました、とても上手でした。



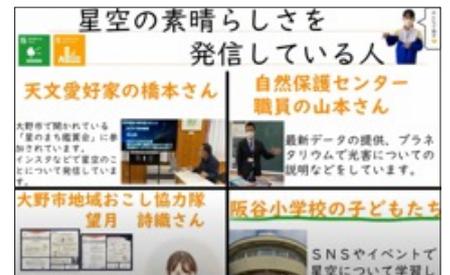
●**茅野市立永明小学校4年生** 昨年度、縄文時代のランプ『つり手土器』について学習をし、ランプのように長く火を灯すためには燃料の油と芯が必要と知りました。今年は、その油を自分たちの力で手に入れようと、育ちやすいエゴマに注目し、栽培から草取り、収穫、脱穀までがんばりました。どうすればたくさん絞れるか議論し、工夫しながら仲間や地域の方の協力を得て搾る活動に挑戦し、念願の油をやっと手にしました。

●信州大学教育学部附属長野小学校6年生 4年生から土器作りをして、今年学校から粘土を取り出し、土器づくりを行いました。土を何回もふるい、水に晒して、乾かしてやっと粘土にすることができました。ろくろを使って各自の作品を制作し、地面に浅い穴を掘って野焼きしました。七輪やドラム缶などでも焼いて、どれが良いか試しました。松代の古陶館を訪問して、土器の文化や職人技にも触れ、土器作りを体験することで大きく成長しました。



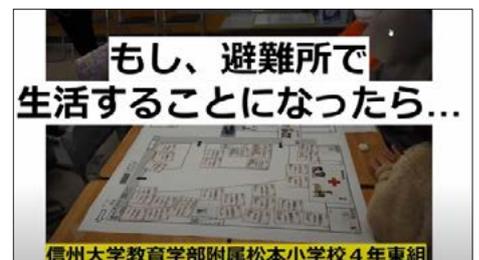
交流会 永明小から東小に、コカリナはどのように吹くのですか、と質問あり、コカリナの指使いを表示しながらドレミを吹いて実演してくれました。阪谷小から、発表の3校とも地域の人と協力して素晴らしいと思います、と感想。東小から永明小に、エゴマはどんなにおいがしますか、と質問、シソや植物のにおいなどあり、最後にスイカの皮のにおいという声がありわかりやすかったです。

●大野市阪谷小学校5・6年生【福井県】 学区の地区は星空保護区認定を目指しています。地区の星空の魅力を市役所やプロネタリウムなど様々な方から学び、星空の魅力ビデオを作り、七夕イベントや秋祭りなどで発信しています。星空を守るために、光害を防ぐ対策を考えInstagramなどで呼びかけ、星空に限らず地域の魅力も発信して持続可能な地区を目指しています。すばらしい星空の写真が一杯な楽しい発表でした。



●信州大学教育学部附属松本小学校4年東組 松本市は大地震の可能性が高いことを知って、もし地震が起ったらどうすればよいか考えました。避難所とはどんな場所なのか、その避難所倉庫にはどんなものがあるのか調べ、日赤奉仕団の皆さんのお力を借りて、避難所体験ゲームと炊き出し体験に取り組みました。防災の講演も聞いて「命を守ること」を学び、自分たちでの地震対策マニュアルを考えて作りました。

●信州大学教育学部附属松本小学校4年西組 「避難所で困るのはトイレ」と知り、1リットルでも流せるレジリエントトイレを体験しました。震度7の大地震を起震車で感じたり、避難所になっている学校に泊る体験しました。非常食が意外においしいことや、段ボールハウスが倒れたり、ただ調べた知識ではなく、実証してみることで実感ある学びになったと感想を述べました。



交流会 東小から附属小に、地震に備えて普段から用意することありますかと質問、地震の時に持ち出しする防災グッズや家具の固定をすると良いですと回答。永明小から阪谷小に、明かりを消すと星空がよく見えるようになりますかと質問、どこでも暗くなるので良く見えるようになりますと回答。

講評 中澤先生（奈良教育大学/ESD・SDGsセンター長） 各発表の良い点を画面表示して講評し、全体として①地域を教材化している、②地域の人から学んでいる、③それが地域への発信という行動につながり、ESDとしてとても良い。2校が土器づくりをしています、縄文というと貝塚が有名ですが、海のない長野では何を食べていましたかと質問し、児童から「ドングリなど木の実だ」と返答あり、そうですね、木の実が秋には食えないので保存したり煮たりに使っていたのでしょうか、実際に体験しての学びですばらしいと評価いただきました。

池端先生（北陸ESD推進コンソーシアム） 体験的な学びでは課題を自分事として考えることで、日常生活にも生かすことができます。防災などの学びでは家庭での避難グッズの整備などに生かすことができたのではないのでしょうかと評価いただきました。

会場4

●信州大学教育学部附属長野中学校1年生 持続可能な社会に向けて個々の生徒が課題を設定し、調査して学習しました。今回は二件の発表でした。①「平和と公正」でロシアウクライナ戦争について、なぜ戦争がおきたのか、それはどんな影響があるのかを調べ、日本はどうなのかについて考えたことを発表しました。②絶滅危惧種について追究しました。レッドデータから地域にある生物を調べ、県の危惧種シナイモツゴを知りました、また外来種による絶滅をどう防ぐか、などの課題あることを学びました。



気候非常事態宣言



●只見町立只見中学校【福島県】 山の中の学校ですが修学旅行でビーチクリーンをおこなっています。ゴミの多さに驚き海を守る学習をおこないました。プラごみをどうにかしたいと考え、ペットボトルフリーマンデー（飲まんディ）を普及させることにしました。校内だけの取組では限界があることに気づき、地域を巻き込むまでになりました。生徒の意識についても調査し活動の見直しを図っています。

●上田西高等学校 文化祭で流木アートをおこない優秀賞、修学旅行では森の学習をし、林業の話や伐採作業なども体験しました。生徒会主体の上田西学びプロジェクト（UNMP）では「くるくる市」に参加し不用品交換や相談交流などを体験しました。3年でのオンライン国際交流と、訪米しての交流で多様性を実感しました。台湾や韓国とのオンライン交流もおこない、オーストラリアとのホームステイなど留学プログラムも再開しています。

台湾オンライン交流



交流会 只見中から附属中へ、戦争の影響や絶滅種のこれからまでを考えているなど感想。附属中からは、只見中の活動は地域へ広げていてすごいなど回答。文化学園から西校へ、言語の壁はどうでしたかと質問、言葉よりより交流しようという積極性が大事だと思ったと回答。山中から、西高へ、日米の学校でどんな違いを感じましたかと質問、米国では感謝祭など学校行事が大規模で驚きましたと回答、只見中のマグネット良いなど感想も。山中から西高へ、くるくるを学校でも実施していますかと質問、文化祭で体育館でも実施しましたと回答。

好事例の紹介

例 認知症講座 + LGBT講座

高齢者にLGBTについて考えるきっかけを作った

高齢者 相続について不安がある

同性愛者 同性婚では相続権が得られない

共通点

お互いの理解できることから歩み寄っていくことで

●文化学園長野中学・高等学校高校1年生 今年度は、同性婚やパートナーシップ制度などの法的妥当性と人権の関係を探りました。同性婚リサーチクエスションから事例や課題を当事者から聞き取りなどして学習し、世論が変わればと願っています。

●文化学園長野中学・高等学校高校2年生 探求ゼミで長野市の耕作放棄地の課題から、観光農業として復活できないか模索する中で出会ったのが、長野市長沼地区のひまわり畑。畑の持ち主さんとの交流から、仲間たちの協力や耕作放棄とはいったい何なのかを探究し、人が繋がる菜の花を考え、種まきから実践しました。菜の花とひまわり畑を加えることで新たな展開ができるのではないかと期待していると。



●文化学園長野中学・高等学校中高自然科学部 科学部では、一年を通じた飯山市豊田小境地区にある棚田と裏山での稲作、森林整備、ブナ林散策などの活動を中心に、そこで得られたものを利用してのイナゴの佃煮づくり、納豆作りをし、校庭でも野菜作りなどを行いました。水田や森の観察から、共生農法などの負荷をかけない自然とのつきあいを考え学んでいます。

自然科学部について 余頃友康さん

部員人数：中学生5人、高校生7人

主な活動場所：飯山市豊田 フォレストデザイン、文化学園の校庭の端

主な活動内容：棚田での稲作、森林整備、協生農法畑の管理

部員主体の研究

交流会 米国ではheとsheからtheiと自称するようになってきましたと意見あり、西高から参考なりありがとうと。只見中から文化学園に、科学部はなぜできたのですかと質問、顧問の先生がコケが好きでクラブ活動として始まったと回答、また、手抜きで共生農したけどたいへんでしたと感想も。

講評 及川先生（奈良教育大学教育連携講座/ESD・SDGsセンター） ①グローバルな視点=国際と地域も同時に学んでいた、②地域の課題を発見して解決までの学びがあった、この二つはつながっている。③山から海を考えていることで地域をも変える、くるくるなど学びを地域と交流することで態度変容にもつながっている、この3つのつながり視点で評価をいただいた。そして、ESDは地域と交流することで社会を変えるにつながり、より進展しますのでこれからも頑張ってください、とエールをいただきました。

—— 15:30 閉会 ——

—— 4日(土)10:00~12:15 ——

会場5

● **いづな学園グリーン・ヒルズ小学校3・4年生** りんごの栽培から販売までの活動に取り組みました。自分たちのりんごをたくさんの人に味わってもらいたい、「どこで売ればよいか」「どうやって魅力を伝えるか」などを考え、お店と何度も交渉したり値段を決めたり準備も大変でしたが、消費社会の仕組みを学ぶ探究を深めることができました。私たちがどのように社会とつながって生活しているのかを活動を通して学びました。

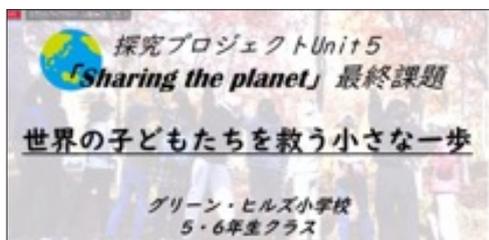


● **高山村立高山小学校5年生** 地域と保護者、子どもたちが、村のよさを学ぶ「わくわく村（村を知る講座で自然体験、ぞうり作り、紙づくり、リサイクル活動、学習発表会など）」も19年目、りんごや米作り体験、美しい村連合として将来に引き継ぎたい観光資源調べ、など、今日的な環境問題の解決や共生社会について取り組みました。今年は3年ぶりに「しらかば学習発表会」を開催し、各学級の取り組みを保護者に向けて発信しました。

● **山ノ内町立西小学校2年生** 地域には豊かな自然があり、小さな命に目をむけてみよう、食べられるものが生えていたり、ケサランパサランが飛んでいたなど季節の変化をにもむけるようになりました。自分たちで大豆をつくり黄な粉にしたり、食べ物にも目を向けるようになりました。



交流会 グリーン・ヒルズから高山小へ、なぜSDGsに取り組んでいますかと質問、6年間SDGsを学んだことが児童会活動につながっていると気づきましたと回答。外部から高山村のお勧めはなんですかと質問あり、児童から雷滝が素晴らしいと回答。グリーン・ヒルズ小より、高山小もりんご栽培しているので交流できたら良いなと感想。外部から、グリーン・ヒルズ小に、販売の交渉での工夫はなんですかと質問、なぜ販売するのかの理由を皆で考えてお願いしましたと回答、失敗を糧に深く考えているのがすばらしいですねと感想ありました。



● **いづな学園グリーン・ヒルズ小学校5・6年生** 「平等な機会にアクセスできることは人類に豊かさをもたらす」というテーマで学習を進め、世界の子どものために、児童労働なくそう、平等な教育の機会にアクセスできるように、自分たちに何ができるのかと考え、簡単な寄付の仕組みを調べて募金先のクラウドファンディングなどを紹介しました。

●長野市立信里小学校3年生 最初に里山の恵みを表す、信里賛歌を歌ってくれました。飼っているカナヘビの卵から赤ちゃんが生まれてトカゲが好きになりました。トンボも11種もいて、田んぼとため池が大事なこと、危惧種シナイモツゴがいること、一人ずつ守るために、つかまえた生き物は自然に返す、緑を増やす、ごみを拾うなどと宣言し、里山賛歌2番を歌ってくれました。里山のよさを知り、『信里を語れる子ども』の素地を作る活動です。



交流会 西小から高山小に虫は何が好きですかと質問、どれも好きですがトカゲは人気ありますと回答。グリーン・ヒルズ小から、発表聞いて虫が好きになりましたと感想。外部からグリーン・ヒルズ小に、フェアトレードチョコはどこで買えますか、どんな支援ができますかと質問、スーパーやコンビニでフェアトレードマークを探してください、ファンドへの寄付やネパールに行くのも支援になると回答。外部からの感想として、自分の興味から調べ学習に進んでいるのが良いですね、ファンドは誰にでも簡単にできる支援で良いですね、などありました。

講評 今井先生(北陸ESD推進コンソーシアムコーディネーター) 交流の時間はとても良かった、北陸の子どもサミットとも交流したい、グリーン・ヒルズ小のリンゴの苦勞が振り返りで大きな学びになっている、高山小の地域と共にある学習がすばらしい。西小やグリーンヒルズ小の地域との交流は大事、フェアトレードなど具体につなげていたように世界から地域に戻すことは大事。信里賛歌はすばらしい、身近な生き物から未来への提案まで楽しみながら自分ごとの学習で、地域との交流でより進むのでこれからは楽しみ、新しい時代の幕開けを感じますと。

会場6

●山ノ内町立山ノ内中学校 「志賀高原ユネスコエコパークの魅力を探り発信しよう」というテーマのもと、1自然と人間の共生 2自然資源の活用 3地域資源の活用 4文化資源の活用 5国際理解関係 の5領域で課題追求を進めてきた。自然Eグループ「志賀高原の自然をもっと知ろう」は現地探訪をし、豊かな動植物を見たが同時に外来種も多いことに驚き、採取も体験した。イワナの原種もいて水もきれいなことを知ってこれからも守っていきたくて発表した。地域Aグループは「身近な取り組みから二酸化炭素排出量を減らしたい」と町の森林面積から吸収量を計算し、それでも町の排出量を賅えないことに驚き、シャワー節約など自分たちのできることを発表しました。



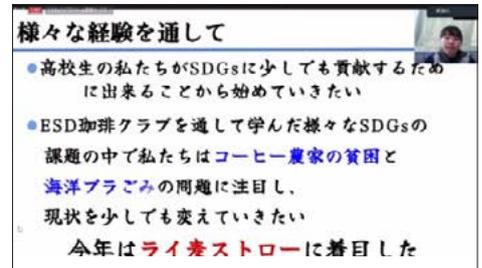
●文化学園長野中学・高等学校中学校生徒会 「4つのRで海の豊かさを山の私たちから守る」をテーマに、家庭からの廃油が川の汚染に大きくかかわっている、植物のパーム油も児童労働など課題あることを知り、廃油で石鹸を制作した。文化祭や地域イベントで300個以上を売りました。途中、廃油石鹸が合成洗剤よりも環境負荷あるという調査みて、「本当にそうか」を実験し、少ない量で油を落とせることを確認できました。モノを作り使うことの難しさと楽しさを体験し、意識することが大事だと知りました。

●文化学園長野中学・高等学校中学校3年生 ART MILE PROJECTでは、インドの学校と壁画を完成させるアートマイルプロジェクトに参加しました。3回のオンライン交流をおこないましたが、互いの意図が伝わらないオンラインの限界や、異文化理解とは何かを考えた1年でした。海外との交流について研究者に聴いて、その困難さや課題こそが学びではないかと助言を得ました。精一杯できることをして、協力して1枚の壁画を仕上げたことは、中学最後の忘れられない思い出になりました。



交流会 林先生（信州大学グリーン社会協創機構）から、石鹼を買ってくれた人の反応はどうでしたかと質問、り、文化学園から、新聞で見てよい活動だねと言ってくれました、と回答。チャットから、外来種はどんな課題ありますか、と質問あり、山ノ内中学校から、ルピナスなど採取してそれを染料にして配布し、喜ばれました、と回答。グリーンヒルズ小から、いずれも校内活動から地域にまで広げているのがすごいと思いました、と感想ありました。

●**中野西高等学校** ESD珈琲倶楽部はこれまでフェアトレードなどに取組んできました。今年は、水害のあった長沼地区の復興として麦ストローの栽培していることを知り、イベント販売でのストローの脱プラを目標に、ライ麦を種から植えてストロー作りに挑戦しました。ムギを育てるのはやさしいですがストロー作成は予想以上に手間がかかり、持続可能にするには課題が多いと感じました。販売時に添えて出すことでお客様に喜んでもらえたことが誇りとなり、活動を継続しています。



●**文化学園長野中学・高等学校高校生徒会** 社会問題の解決に向けて高校生にできることは何かを探り、SDGsに関する10以上の活動を実践しました。①カムカム紙プロジェクト ②暑さを防ごうプロジェクト ③ながの環境フェアボランティア参加、④ぬうぞうくんプロジェクト（雑巾を縫って寄付する）、⑤長野駅前クリスマスツリーデザイン、⑥smile design weekクリスマスプレゼント企画など、様々なチャレンジをすることで少しずつ学校にも元気が戻ってきたように感じます。

交流会 司会から、麦ストローは何回使えますか、会場からも麦以外のストローはどうですか、脱プラ活動は他に何をしていますか、など西高へ質問あり、ムギストローは洗えばかなり使える、米ストローもムギと同じようでした、海でのプラごみ調査を広げていきたいと回答。学生から文化学園に、たくさんの活動でどれが大変でしたか、生徒会の次の活動は何を考えていますか、と質問あり、紙集めがサイズなど意外と大変でした、次はバレンタインでの企画を募集中です、と回答ありました。

講評 阿部先生（立教大学ESD研究所名誉教授） これから社会は大きく変わろうとしています、皆さんはその時代を生きるSDGs新世代ですね。それぞれの活動が継続されていて、それが新しい課題の発見にもつながっている、すばらしいです。そしてさらに先を見て考えることにもつながけてみてください。SDGsは17の目標ですが、全体にはどれもつながっています、全体として社会が良くなることを考えてみていきましょう。また、身近な自然の価値や意味を再発見するのも良いですね、これからは頑張ってくださいと、とエールをいただきました。

全体共有の時間 児童から、発表を聞いてもらえてうれしかった、他校の発表がすごいと思った、教員からも、児童生徒の探求と課題が交差していて学びが深まっていた、など高評価の意見が多数ありました。

閉会挨拶

林先生（信州大学グリーン社会協創機構長） 児童生徒さんからの質問が多くて感動しました、多様な活動が行われていることや皆さんが楽しく発表されていてとてもよかった。今後の他校との交流も楽しみです、信州のESDも大いに発展するでしょう。

宮島様（長野県環境保全協会専務理事） 最初から参加しているので年々成果が向上してきたと思う。自分から発見し地域もからめて活動し、発信していることに感動している。長野県では信州環境カレッジの出前授業もできますのでぜひご利用ください。

———— 12:20 閉会 ————

